

木漏れ陽

12月

平成29年12月7日 第49号
発行佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 中村祐二郎

★ユニバーサルデザイン!

ちょっとしたところにも



佐賀市では、すべての子どもが、生活しやすく学びやすい環境を推奨するユニバーサルデザイン教育を実践しているところです。佐賀市の小中学校の多くが、授業中に子どもが注目する場所となる前面の掲示をなくし、集中できる環境を整えています。また、授業においては、活動の見通しを持たせるために、めあてや授業の流れを提示するなどの視覚的な支援が取り入れられています。そのほか、話す・聞く・書く時間を確保することや書きやすいワークシートを工夫する等、様々な取組がされています。(佐賀市「ユニバーサルデザインを意識した授業づくり・学級づくりを!」参照)

教師として、授業の終わりや一日の終わりに「今日の授業は良くわかった。」「楽しかった。」という言葉を聞くことは一番の楽しみです。その言葉を聞いた途端、教材研究で苦戦したことやその日の疲れが、一瞬でどこかに消えてしまいます。逆に「今日は難しかった。」「わかりにくかった。」「もう疲れた。」などという言葉が聞くと、「どこが分かりにくかったのだろうか。どこが・・・そうかあ。」と子どもに確認しては反省し、再び教材研究に取り組み、自分でシミュレーションをしたものです。特に、子どもが予想に反した反応をした場合など、もっとよい発問はなかったのだろうかと考えたものでした。

当然のことですが、ひとりひとりの子どもの状況をイメージし、しっかりと準備して初めて授業は成立し、子どもと共に作り上げることができます。この子どもだったら、どうするだろうか考えることで、ワークシートや声かけなどにも変化をもたせることができます。これが、授業によるユニバーサルデザインのベースになると考えます。

学校生活は、授業が主となっていますが、授業以外にも朝の時間や放課後の時間を使って、読書やスキルトレーニング、係活動や委員会活動、部活動など様々な活動があります。授業や教室環境については、十分に注意を払っていますが、授業以外の活動については、十分に気配りができないことがあります。環境が子どもの生活に与える影響はとて大きいということを強く感じます。私が中学校の教員として、特に気を配っていた「学級文庫」の取組を紹介します。

子どもは本に親しみ読書の習慣を身につけることで、活字に慣れ、様々な情報を取り入れることができるようになります。しかし、中学生ともなると、読書への関心や読書量、言葉の力の差は大きくなってきており、読書の時間を苦痛と感じる子どもがいます。自分で本を準備することさえ難しい子どももいますので、学級文庫にちょっと工夫を凝らしてみました。

まずは、漢字や文字の量が多いものを苦手としている子どもを意識して、絵本や詩の本を置きました。能力に合わせて段階的に読めるように、文字の量が少ないものから、多いものまでを準備しました。加えて、「思いやり」「いじめ防止」「心のケア」につながる本を準備しておく、さりげなく心に訴えかけていくことができます。

次に漫画を置きました。左右のページが、日本語と英語で表現されている「サザエさん」です。読みの苦手な子どもが手に取った漫画の横ページに英語があることで、自然と英語に触れることができます。読書への興味を引き出すことと英語へ親しむことができ一石二鳥になります。また、「心のケア」につながる漫画も置いていました。

学習とは直接関係のないジャンルの本も準備しました。その時期に話題となっている映画の原作本は、画像とつなげられるので読みやすかったようです。学級文庫にある本であれば、手に取っても許される状況を作ることと読書への関心を高めるようにしました。読書の苦手な子どもも、安心して読書に取り組める私なりのちょっとしたユニバーサルデザインの工夫を紹介しました。

(学校教育課 指導主事 熊本万里子)

平成29年度佐賀市教育研究発表会

1 目的 佐賀市の教育に関し、当面する教育課題やその対応等および教科等の研究について成果発表を行い、市内の教職員の理解を深めるとともに、資質向上を図る機会とする。

2 期日 平成30年 1月25日(木) 13:30~16:40

3 会場 佐賀市東与賀農村環境改善センター

4 内容

- (1) 受付 13:00~13:30
- (2) 各プログラム日程等
- ① 開会・挨拶 13:30~13:35
- ② 教育研究所研究発表(大研修室)
- ・教育研究所研究発表(課題研究部) 40分 13:40~14:20
 - ・教育研究所研究発表(児童生徒理解部) 40分 14:25~15:05
- ※ 移動・休憩 15:05~15:15
- ③ 個人研究発表(3会場に分かれて) 15:15~16:40



個人研究発表者				教科等
聴覚室	岩本 扶巳	教諭	(勸興小)	特別活動
	矢川 亮太	教諭	(赤松小)	特別活動
	渡辺 剛史	教諭	(神野小)	理科
大研修室	高木 公裕	教諭	(西与賀小)	国語
	竹下 敏史	教諭	(高木瀬小)	特別活動
	福田 あや	養護教	(高木瀬小)	保健
	野中 亮彦	教諭	(北川副小)	特別活動・国語
和室	松永 亮	教諭	(北川副小)	特別支援教育
	峰 翔次朗	教諭	(春日小)	国語
	手島 将之	教諭	(城北中)	社会



佐賀市の若い先生を中心に、研修を深めたことを発表します。先生方の熱意を感じると同時に、これからの取組について多くのヒントをもらうこと請け合いです。興味のあるところだけでもいいのでできるだけ多くの先生に参加していただきたいと思います。
(教育研究所担当 大久保美奈子)

個別の教育支援計画・個別の指導計画を生かして

学校教育法の改正により平成19年度から、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校において、特殊教育から特別支援教育への転換が行われ10年が経過しました。特別支援教育は、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立っています。

また、小学校新学習指導要領では、「総則第4児童の発達の支援、第2項特別な配慮を必要とする児童への指導」の中で、「障害のある児童などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に、特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。」とあります。

各学校においては、一人一人のニーズに対応する個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、活用していく必要があります。今後、適切な支援を続けるために、小中学校で作成している個別の教育支援計画、個別の指導計画が高等学校や大学、あるいは就労する事業所等へ、受け継がれることが求められるでしょう。以下、資料を紹介します。(学校教育課 就学指導員 千住 友二)

◆個別の指導計画を立てることのメリット(個別の指導計画作成ハンドブック 日本文化科学社 海津亜希子著より引用)

- 1) どのような点をさらにアセスメントすべきかが明確になる
- 2) 指導の方向性が明確になる
- 3) 評価の視点が明確になる
- 4) 指導で意図することが他の人へ伝えやすくなる
- 5) 子ども自身が自分の学習の方向性を理解しやすくなる
- 6) クラス全体への相乗効果をもたらす
- 7) 作成者のスキルアップにつながる